



公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

やまぐち

# 桜の森 通信

2010.4 第5号

山口県立大学広報誌

▶

[特集]

## 県大ライフQ&A

「先輩が新生活の悩みに答えます」

この半年の出来事

研究室紹介

講義紹介

相談の森

学生紹介

サークル紹介

留学生紹介

平成22年度スタッフ紹介

当初予算概要

トピックス

キャンパススケジュール



# 県大ライフQ&A

## ～先輩が新生活の 悩みに答えます～

春の入学シーズンを迎え、本学のキャンパスにも初々しい顔の新入生たちがあふれています。大学入学を機に実家を離れて一人暮らしを体験したり、これまでの学校生活とは違う大学生活にとまどったりと、期待と不安の双方を胸に抱いていることでしょう。新生活に関するさまざまな疑問に対して、ピアサポート(※)活動に取り組む本学学生に答えてもらいました。

※ピアサポートとは、同じ立場の仲間による援助のことで、本学では上級生が新入生の相談にのる活動をボランティアで行っています。

**Q.** 大学って、高校とどこが違うのですか？

**A.** 一番の違いは、自分が受ける講義を自分で決めていくことだと思います。講義を選ぶ手順としては、まず必修の科目を取って、それから選択できる講義の中から、自分が興味のある講義を選んでいきます。一期に取れる単位数には上限がありますが、その数は学部学科によって違います。選び終わったら、インターネットを介して登録をしていきます。履修方法については新入生オリエンテーションで説明されたり、冊子が配布されたりするので、参考にしてください。

講義や登録についての質問は、チューター(担任のような役割)の先生や大学職員の方に相談することができます。また、実際に毎年登録をしている先輩学生に聞くのも良いでしょう。特に、まだ知り合いも少ない入学時期に合わせ、学校生活、一人暮らしなどの悩みに応える相談会をピ

アサポート活動として学内でを行っています。回答者も同じ学生です。気軽に利用してみてください。



社会福祉学部  
社会福祉学科4年  
まつ お たつ や  
松尾 辰哉

**Q.** 大学生活が始まりますが、知り合いが周りにいません。病気になる時や、友達がなかなかできない時など、色々不安があります。



看護栄養学部  
栄養学科3年  
よし かわ りょう へい  
吉川 亮平

**A.** 知り合いが周りにいないということはとても不安です。僕も県外から入学したので初めはとても心配でしたが、今は楽しく過ごしています。大学には中学、高校以上にいろんな人がいます。県外の人も多く、同じような悩みを持った人が少なからずいると思います。入学時には宿泊オリエンテーションやサークル紹介、茶話会などの行事を通して、人とかかわる機会も多く、積極的に話していけば知り合いや友達はどんどんできると思います。出会いは一生ものです。ぜひ、そういった場を楽しんでください。

また、大学には健康サポートセンターという場所があり、病気や怪我の時には応急手当などをしてくれますし、健康相談にも応じてくれます。心の不安や悩みについて、ゆっくりと時間を取って聞いてほしい時には、学生相談室で専門家によるカウンセリングも受けられますので、ぜひ利用してみてください。



健康サポートセンター

**Q.** 大学のある山口市宮野は自然が豊かだと思いますが、周囲に何があるのか分かってなくて、生活していけるか不安です。

**A.** 土地勘の無い場所での生活は、右も左も分からず不安になりますよね。私も入学直後は、この場所で生活していけるのか不安になりました。そんな時、わたしはとにかく外に出て、大学周辺を歩いて探検しました。少しずつ周辺にある生活関連施設や道が分かり始めると安心感が出てきました。また、道に迷った時に勇気を持って、地元の方に笑顔で声を掛けると、快く対応して助けて下さったことがあり、地域の温かさがすごく嬉しかったことを覚えています！先輩や友達ができ始めたら、「あそこの店が安いらしいよ！」などと情報交換するのもいいですね。



宮野っちょる!?!～新生活応援マップ

わたしが所属するボランティアグループ

「ピアサポーター」では、生活に関する情報をまとめたマップ「宮野っちょる!?!」を作成しました。病院やスーパー、朝市と学生が生活していく上で使用頻度の高い施設を紹介しています。このマップが、皆さんの大学生活を豊かにする「サポート役」となることを願っています。



看護栄養学部  
看護学科4年  
むつ だ まさ み  
陸田 正美

**Q.** ボランティア活動に興味を持っていますが、大学生活と両立できるでしょうか？



社会福祉学部  
社会福祉学科4年  
お だ が み の り こ  
小田上典子

**A.** 両立できると思います。県大では学生活動支援センターの「ボランティア窓口」や学内の掲示板で、さまざまな分野のボランティア情報が提供されています。また、福祉系サークルも数多くあります。まずは、組織やサークルなどに所属してボランティア活動を始めるのも、ひとつの手かもしれません。

ただし、活動を継続していくと、今度は「行かなくて」と責任感を抱き、無理をする場合もあると思います。けれど、無理をしても、活動態度に表れるし、事故も起こりやすくなります。

ボランティアは自分の空いた時間に、無理なくやるものであり、なにより、自分が楽しめなくては長続きしません。自分が充実した状態であることで、充実した一日を過ごすことができます。それは、教科書では学べないかけがえのない体験です。

ボランティアには素敵な出会いがたくさん待っています。活動を通して出会った方々との縁は、私にとって大きな宝物です。皆さんにも素敵な出会いがありますように。

### 本学のサポート・相談窓口

- 健康サポートセンター 083-928-5648
- 学生相談室 083-928-4705
- 学生支援部生活支援グループ 083-928-5647
- 学生活動支援センターボランティア窓口 083-928-3476



# ▶▶▶ YPU New Wave

## この半年の出来事

昨年10月から今年3月までの主な出来事について、報道発表(ニュースリリース)したものを中心に紹介します。



### 11/2

#### ○平成21年度の桜園学術三賞・桜園会賞表彰式

優れた教育・研究・地域貢献活動に大学から贈られる桜園学術三賞と、本学の支援や地域社会とのつながりにかかわる社会・文化的活動を桜園会がたたえる桜園会賞が決まり、表彰式がありました。

受賞団体・個人は次のとおり。(敬称略)

【桜園学術三賞】教育賞 シャルコフ・ロバート(国際文化学部准教授)▽同 藤田久美(社会福祉学部准教授)

【桜園会賞】功労賞 森重香代子(桜園会下関支部)▽奨励賞 山口県立大学よさこいサークル奄美連合萩組▽同 山口県立大学エコアクション21学生委員会



受賞者と受賞団体の皆さん



華月祭の会場

### 11/7~11/8

#### ○華月祭

新キャンパス多目的グラウンドを会場に、学生による実行委員会が企画運営したバンド演奏やダンス、ファッションショーなど多彩なイベントが開催されました。一般来場者の姿も見られ2日間盛り上がりました。

### 11/14

#### ○GPFフォーラム開催

平成19~20年度に採択された本学の6GP(※)が合同で「地域と大学」をキーワードに、フォーラムを開催しました。各GPでの取り組みや成果等を紹介する分科会や交流会もあり、一般を含めて約500人が来場しました。

※優れた教育への取り組みを文部科学省が評価、選定、支援する「Good Practice」の略



フォーラムの開会式



テーマに沿った考えを述べる参加者

### 12/8

#### ○山口きらら杯マルチリンガルスピーチコンテスト開催

第6回マルチリンガル(多言語)スピーチコンテストが講堂で開催されました。学内外の応募者から、予選を通過した8人が本選に出場しました。日本語、英語、中国語、韓国語(朝鮮語)、スペイン語から、2言語を用いて「Life」をテーマに自身の考えを述べました。

### 12/9~12/10

#### ○青島大学と学術交流の意見交換

学術交流協定校の中国・青島大学から姜振家(きょう・しんか)医学院長兼附属医院長らが本学を訪問し、看護栄養学部の教員と今後の学術交流について協議しました。協議では互いの教育システムや特徴、短期研修の機会等について意見を交換しました。



意見交換する本学教員ら



講演するリーガルマン教授

### 12/11

#### ○姉妹大学交流・市民公開講座開催

本学が学術交流協定校と進める教職員交流の一環で、米国センター大学からミルトン・リーガルマン教授が来日し、山口市内で米国を形成した思想家をテーマに講演しました。リーガルマン教授は約1週間の滞在中、教員や学生を対象にした学内講演や授業見学など精力的に活動されました。

### 1/15

#### ○心と身体の相談室(愛称:心とからだの相談室)開設

各分野で専門性を有する本学教員が健康から福祉、また日常生活等の悩みに応じる相談室を地域交流スペースYucca(ユッカ)に開設しました。料金は、1回40分3千円(最大6人までのグループ相談も可)。完全予約制で秘密も厳守します。

予約や問い合わせはYucca電話083-934-8011へ。



相談に応じる本学教員



卒業証書・履修証明書を受け取る修了生

### 2/26

#### ○看護研修センター感染管理認定看護師教育課程修了式

昨年8月から約6カ月間にわたり学んできた第一期生30人の修了式がありました。日本看護協会のカリキュラムに基づく630時間の教育課程を終え、認定看護師の受験資格を取得しました。江里学長から1人ひとりに修了証書と履修証明書が手渡されました。

### 3/7

#### ○やまぐち桜の森カレッジ ゼミ発表&交流学習会

県民を対象にしたゼミ形式の講座「やまぐち桜の森カレッジ」の成果発表と交流学習会がありました。今年度から新たな試みとして、受講生や修了生以外の一般参加者も加わり、研究成果の内容や学習を生かした地域活動についてお互いに話し合い、交流を深めていました。



意見を交わしあった交流学習会



卒業証書を受け取る卒業生

### 3/17

#### ○平成21年度卒業証書・学位記授与式

学部生330人、大学院生21人が本学で培った成果を糧に新しいステップへの第一歩を踏み出しました。



# Welcome to LAB

## 研究室紹介

社会福祉学部 社会福祉学科  
精神保健福祉Ⅰ研究室  
講師 高木 健志

ソーシャルワーカーの国家資格のうち、精神保健福祉分野で活躍するのが精神保健福祉士です。メンタルヘルスへの関心が高まる現代社会にとって精神保健福祉士の役割は大きくなっています。また、私自身は、これまでの精神科病院での精神保健福祉士としての実践経験を関心の起点に、精神保健福祉士の実践からの理論化に関連する研究をテーマにしています。

ゼミでは、ソーシャルワークの研究方法を体系的に理解しながら、文献をもとにディスカッションしていきます。ゼミ生各人が関心を研究テーマへと精度を上げていく過程

そのものも学びになるという理由から、各ゼミ生の関心やテーマは多岐にわたります。しかし、前提としてディスカッションに堪えうる内容が求められますし、領域が広がれば、発表する側は「限られた時間のなかで、どう説明すれば、よく伝わるのか?!」をとことん考えざるを得ません。他方、発表を聞くゼミ生側は、最適な質問ができるように、そのテーマに関して事前に一定の理解をした上で、関心の窓を全開にして臨まなければなりません。

教員・ゼミ生間の相互作用を基盤にしたこの過程を重視することで、ゼミ生は

「自分がまず理解していないと、『説明』という行為はとても難しい」ということを体得していくこととなります。

これからも、よりよい教育ができるように、私自身が、さまざまな事象に対して、常に関心の窓を広げたいと思っています。



看護栄養学部 栄養学科  
応用栄養学研究室  
講師 弘津 公子

これからの求められる管理栄養士像は、「人間の健康の維持・増進および生活の質の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を、栄養学および関連する諸科学を踏まえて実践できる専門家」とされています。そこで応用栄養学では、健康な個人を対象とし、ライフステージに応じた健康の維持・増進、並びに、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸等を目的とした栄養マネジメントを展開するための基礎を学びます。

私の研究室では、主に地域在住の自立高齢者を対象とした「健康寿命を延伸するための要因」について、個人の栄養状態や食生活と口腔内の粘膜免疫能、並びにQOL(生活の質)との関係を中心に研究しています。また、成人の栄養状態と身体活動に関

する研究や、2011年に開催される山口国体のテニス選手(ジュニア)の栄養サポートを行っています。私のこのような研究テーマの背景には、管理栄養士養成施設である本学に勤務する以前の要介護高齢者に対する栄養ケアマネジメントの実践や、地域の生活習慣病予備群に対する健康運動指導士としての支援活動があります。

研究室には、高齢者施設に就職を希望する学生やアスリートの栄養マネジメントに興味を持つ学生が集まってきました。より個別性の強い高齢者やアスリートへの質の高い栄養マネジメントを展開するには、課題を抽出するアセスメント能力が問われます。学生には、人を対象とした調査・研究という実践の場で、アセスメント能力を高める指導をしていきたいと考えています。

# Watch Lecture 講義紹介

## 服飾デザイン実習

国際文化学部 文化創造学科  
教授 水谷 由美子

文化創造学科では、1年目に国際文化学部共通必修科目で生活文化論を学習します。ここでは身近な衣・食・住の中で、特に衣を中心に世界の生活文化を比較し、国際的な知見やものの見方を学習します。そして、諸外国の文化の受容だけでなく発信していく創造的ライフスタイルを個人が構築することの大切さを理解します。

文化創造学科企画プロデュース系の服飾デザイン実習においては、服飾デザインの発想、テーマ設定に必要なリサーチ、プレゼンテーションなどの方法や服飾造形における立体裁断、ド

レーピング技術などの基礎を学習します。また、地域のアパレル企業の工場で、工業的手法によるジーンズ制作の実習もします。最後に各人のテーマで作品を制作し、ショーにて発表します。

3-4年の専門・卒業演習などのゼミナールでは、エコロジーやサステイナブル(持続可能性)など社会的な問題意識を前提とし、国際的な視野から地域資源を生かした山口ファッションを発信するために、企画プロデュースから服飾デザイン、服飾造形そしてショーの運営や広報宣伝まで、研究室メンバーが共同プロジェクトに取り組みます。

可能な範囲で産公学連携のプロジェクトを立ち上げ、個人の創作研究活動のみならず地域社会との共同制作も実施し、地域に貢献できる人材養成も目指しています。また、スペイン、中国、

フィンランドの国際学術交流協定校等やカタールの大学で共同ワークショップや作品発表等を実施しています。



# Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。

**Q** 山口県立大学に「心と身体の相談室(愛称:心とからだの相談室)」がオープンしたと聞きました。機会があれば、利用したいのですが、どんな分野があり、誰が相談にのってくださるのでしょうか。また誰でも利用できるのですか。[40歳代 女性]

**A** 本相談室は、トータルヒューマンケアを目指した相談室で、健康から福祉、さらには日常生活の様々な悩みの相談に応ずることを通して、県民のQOL(生活の質)を高めることがねらいです。

相談には、医師、保健師、助産師、看護師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、管理栄養士、その他の専門性を有する県立大学の教員が担当いたします。

相談の分野は、医療についてのセカンドオピニオン、メタボ対策、発達障害児の療育、家庭での看護や介護の悩み、子どものしつけや子育ての悩み、思春期や更年期の女性の悩み、心の疲れやストレス、バリアフリーの住宅改修、職場や家族関係の悩み、高校生のための進路相談など幅広く対応しています。ゆっくり時間をかけて話を聴いて欲しい方、わかりやすく説明して欲しい方、悩みがあっても最初の一步が踏み出せなかった方に、気軽にご利用いただければ幸いです。

相談料は、1回40分3千円。完全予約制、秘密厳守で対応させていただきます。また、1回6人までのグループ相談も受け付けております。

ご予約・お問い合わせは、  
地域交流スペースYucca(ユッカ) 電話(083)934-8011まで



心と身体の相談室  
室長 加登田 恵子



# Student's Interview 学生紹介

## いま、キミは輝いて

### 食育プロジェクトから学んだこと

看護栄養学部  
栄養学科4年  
細田 耕平さん  
[栄養学科食育プロジェクトの学生メンバー]



私は、一年次から小学生を対象とした栄養学科の食育プロジェクトに参加しています。最初は「栄養教諭になるために食育を学びたい」という理由からでした。しかし、学年を重ねるうちに、自分たち学生が中心となって企画すること、また、子どもたちと接する中で子どもが成長していく姿にやりがいを感じるようになりました。

特に企画の段階から自分と違う考えの人と意見交換を重ね、完成した進行内容を通して、子どもが楽しそうに生き生きとした顔で食べ物の知識を吸収していく姿を見ると今までの苦労がすべて報われるのを感じます。

実際、私は他の人たちと一緒に「食事バランス」をテーマにした企画を考えました。子どもたちが、自分自身の力で自分の問題点に気付くことができるように内容を構成することが、最大のポイントでした。この時、同じグループの人から自分では気付かない視点に立った意見をもらうことで、自分自身の視野も広がり、グループとしての話し合いも進んでいきました。この充実感は、一人では決して得られないものです。グループのみ

んなと、企画に携わることができて、とてもよかったといつも感謝しています。これらの体験により培った企画力と他者の考えを取り入れる柔軟性は、私にとって貴重な財産になりました。今後も多くの人と力を合わせて、より良いものを生み出していく活動に取り組んでいきたいと思えます。



食べ物博士に扮した細田さん

### 一つのきっかけから大きなつながりへ

国際文化学部  
国際文化学科4年  
今田 萌美さん  
[山口国体PR壁画制作メンバー]



私が、制作に携わるきっかけは所属する芸術サークルSCC(Sakurabatake Creators Club)に、大学の先生が「維新百年記念公園で山口国体に合わせた工事が進んでいる。その仮設外壁に国体をPRする壁画を制作してみないか」と声を掛けてくださったことです。

サークルは学生が気軽に作品発表できる場づくりや、創作を志望する学生が交流する機会を設けることを目的に、自主企画の作品展等を開催してきました。2年前の設立以来、外部の人や団体と交

流し、活動の幅を広げたいという思いがあり、県という初めての外部、しかも全国的なイベントに関わる依頼に、メンバー全員胸を躍らせながら引き受けました。

制作は昨年8月から始めましたが、容易には進みませんでした。何しろ全員、屋外製作は未経験で、雨風に強い塗料を考慮ことや熱射病対策など、すべてが分からないことばかりでした。また、帰省や実習時期とも重なることから、わたしたちはメンバー間で緊密に連絡を取り、先生や県職員の方にアドバイスを仰ぎながら進めました。

そして、ついに作品が完成し、9月24日に現地でお披露目のセレモニーがありました。作品やわたしたちの声をメディアの方に取り上げていただき、また、周囲からの反響に達成感と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この依頼がきっかけで、今では地域の方や他団体の方にも、広く声をかけていただけるようになりました。このつながりを大切に、今後も他団体との合同展や公募展への応募など幅広く活動していきたいです。



後右端が今田さん

## サークル紹介

を広げています。

一昨年度からは山口市内で開催されるイベント「アートふる山口」で、会場限定ラジオ放送のパーソナリティーを務め、来場者の方々に多彩な情報を届けました。様々な年代・職種の方々とイベントに携わり、番組を作り上げたことで、技術以外に個々の人間性も大きく成長できたと感じています。

部員の中には、アナウンスやメカニックの世界に初めて触れる者も珍しくありません。しか



しマメな練習と先輩との密な交流により、学内サークルの定期公演が立て込む12月には、立派な戦力として活躍しています。本年度も活動の場を与えてくださる依頼者・団体との信頼関係を大切に、式典・イベント等を通して、部員それぞれが自身に磨きをかけていきたいです。

# Exchange Program 交換留学

山口県立大学は中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペイン・フィンランドの7大学と学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。今回はスペインのバンプローナ市にあるナバラ州立大学との交換留学生にスポットをあてます。

- ①留学先大学の印象
- ②ホストファミリーとの1番の思い出／寮生活の1番の思い出
- ③留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
- ④留学先大学の授業の印象
- ⑤留学中に参加した課外活動と思い出

### ●●● ナバラ州立大学へ ●●●

国際文化学部国際文化学科4年

伊敷 江莉果さん



左が伊敷さん

- ①大学を見て、まず大きさに圧倒されました。また、キャンパス内はまるで洋画でも見るような光景でした。図書館の広さにも驚きましたが、テスト時期になると、広いはずの図書館も座れないくらいに学生でいっぱいになり、勉強に対する熱意を感じました。
- ②私は一緒に留学に行った先輩とメキシコからの留学生、2人の社会人と部屋をシェアしていました。同居人はどの人も大変優しくかったです。帰国が近づくと、お互いに料理を作って食事しました。いろいろなことを話して、時間が経つのをとても早く感じた楽しい一時でした。
- ③ガウディの建物が多く残っているバルセロナです。それらは実に美しく、ただただ圧倒されるばかりでした。また、バルセロナ近くのジローナ地方には、ダリ美術館がありました。そこでも素晴らしいアートに直に触れることができたので、もう一度訪ねてみたいです。
- ④授業は日本とは違い、学生の意見、発言が常に求められました。私も、日本のことを聞かれた時は、最初はままならないスペイン語で発言しました。大学にはワインを主とした授業があり、興味を引かれ受講しました。ワインの試飲や品質の比べ方、ぶどうの産地や種類、作り方など様々なことを学びました。
- ⑤留学生を対象としたナバラを周る小旅行に参加しました。バスに乗る時、座席の関係で一緒に行った日本人の友達とバラバラに座りましたが、隣になった人と友達になりました。帰りはまた、別人だったので、1日で2人の友達ができました。彼らとは今でも連絡を取りあう親しい仲です。

### ●●● 山口県立大学へ ●●●

ナバラ州立大学4年

エドワード・モレノさん



右がモレノさん

- ①県大の先生や学生が親切なことです。特に学生チューターには、いろいろな場面で助けてもらい大変感謝しています。多くの日本人と知り合いになり、友人もできて、大変うれしかったです。いろいろな日本文化について教えてもらったことも、かけがえのない経験となりました。
- ②私のホストファミリーは親切で優しく、とてもいい方でした。特に、息子さんと遊んだことが面白かったこととして思い出されます。インド料理店に連れて行って頂き、その料理がとてもおいしかったのも、印象的でした。
- ③日本のいろいろな場所に行きましたが、どこも素晴らしいです。特に京都が一番、印象的でした。日本の伝統文化を代表する美しいお寺(東寺など)があるからです。また、夜になるとたくさんの明かりがつき、たくさんの人でにぎわう活気にあふれた大都会というのが私の実感です。
- ④県大の授業は大好きでした。文化間の相違を話し合うことが多く、日本・スペイン・フィンランド・北アメリカなどの文化を、家族や友人などのいろいろな切り口で議論します。授業で私が得た一番重要なことは、多くの文化を話し合いによって学ぶことで、自分の心を徐々に開くことができたことだと思います。
- ⑤県大の地域交流活動にたくさん参加しました。浴衣を着たり、大内塗の箸を作ってみたりと貴重な経験をさせていただき、とても楽しかったです。また、地域の方々と交流を通して、知り合いになりました。文化交流活動も学生と互いの文化を共有する有意義な機会になりました。

# Circle Report

## イトワール放送局

**[技術とともに、自分自身の成長も目指す]**  
イトワール放送局は16名で活動しています。部員は志望分野に沿って、アナウンス中心、メカニック中心と各担当に分かれ、それぞれ活躍しています。  
年間を通しては、大学や地域の式典・イベントの司会、学内サークルの公演の司会や照明・音響などの裏方を引き受け、その活動は年々幅

## ナバラ州立大学

スペイン・バンプローナ市



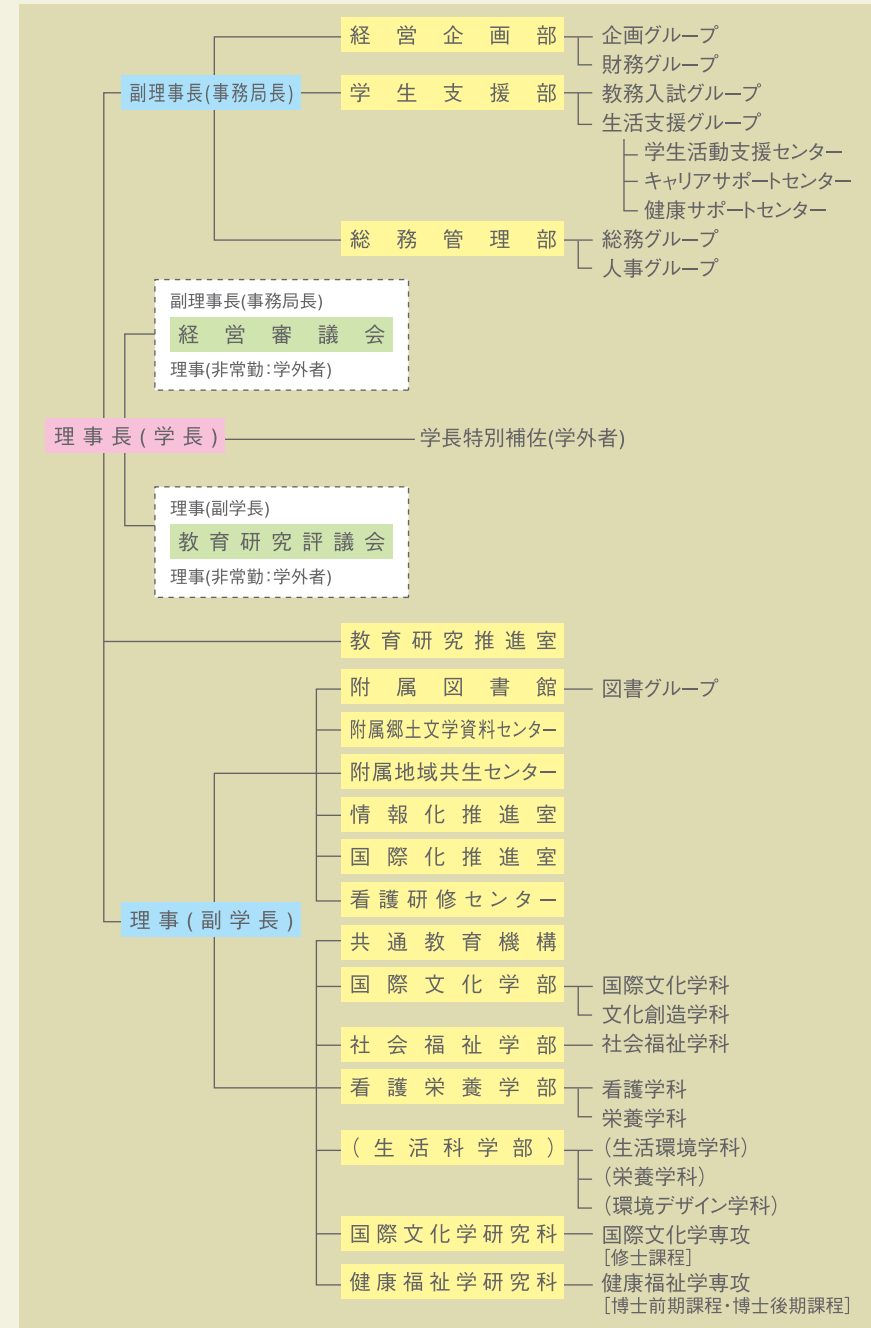
スペイン北部に位置するナバラ州では、フランスとの国境に跨るピレネー山脈とその麓に広がる森林地帯の変化に富んだ地形が、豊かな風景をつくりだしています。9世紀から16世紀までナバラ王国として独立していた歴史を持つこの地方は、独自性のある伝統や習慣が維持されています。州東部には日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・サビエルの生まれたサビエル城があります。

ナバラ州立大学は、スペイン北部ナバラ州のバンプローナ市にあり、1987年に設立されました。学部は、経済学部、商学部、農学部、社会学部、法学部、労働関係学部、社会福祉学部、看護学部、工学部、産業・テレコミュニケーション学部、情報学部等があり、毎年100人以上の留学生を受け入れています。



平成22年度の組織と役員・委員・幹部職員です。

組織図



(役員)  
 理事長 江里 健輔  
 副理事長 小田由紀雄  
 理事(常勤) 三島 正英  
 理事(非常勤) 古谷 正二  
 理事(非常勤) 辻田 昌次  
 監事(非常勤) 宇高 壽子  
 監事(非常勤) 越智 博

(経営審議会:学外委員)  
 古谷 正二 公立大学法人山口県立大学理事  
 川久保賢隆 株式会社測定器サービス代表取締役  
 阿野 徹生 長門市副市長  
 河野 康志 (株)マルニ代表取締役社長  
 島添美葉子 消費生活アドバイザー  
 吉村 京 山口県立大学同窓会(桜園会)

(教育研究評議会:学外委員)  
 辻田 昌次 法界寺住職  
 沖浦 初孝 山口県ひとり暮らし財団常務理事

学 長 江里 健輔  
 副 学 長 三島 正英  
 国際文化学部長 岩野 雅子  
 社会福祉学部長 加登田恵子  
 看護栄養学部長(兼生活科学部長) 長坂 祐二  
 国際文化学研究科長 鈴木 隆泰  
 健康福祉学研究科長 田中マキ子  
 共通教育機構長 満手 朝子  
 附属図書館長兼情報推進室長兼  
 教育研究活動等点検評価委員会委員長 青木 邦男  
 附属郷土文学資料センター所長 稲田 秀雄  
 附属地域共生センター所長 赤羽 潔  
 国際化推進室長 シャルコフ・ロバート  
 教育研究推進室長 川口 喜治  
 看護研修センター所長 岩本テルヨ  
 事務局 長 小田由紀雄  
 経営企画部長 木村 泰則  
 学生支援部長 人見 英里  
 総務管理部長 松岡 光信

新規採用職員です。どうぞよろしくお願ひします。

教員

看護栄養学部看護学科 教授 吉村 耕一  
 附属地域共生センター 助教 大河原 修  
 教育研究推進室 助教 吉岡 一志

事務職員

経営企画部企画グループ 佐々木雄士  
 経営企画部企画グループ 丸山 絵里  
 学生支援部生活支援グループ 小林 亮彦  
 学生支援部生活支援グループ 三浦 理恵  
 総務管理部総務グループ 後藤 勝之  
 総務管理部総務グループ 橋本 あや  
 総務管理部人事グループ 木下 拓之  
 国際化推進室 梶 建次  
 教育研究推進室 三宅 早苗

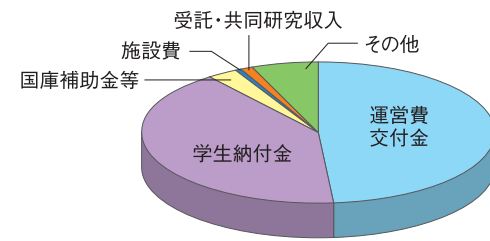
平成22年度の予算

【予算規模】

(千円、%)

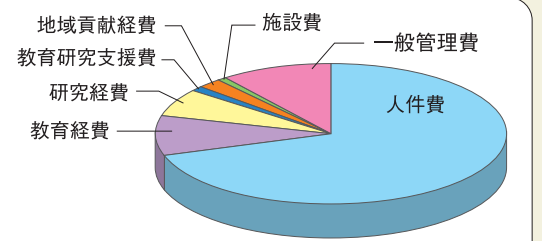
区分	平成22年度 A	平成21年度 B	増減額 C = A - B	増減率 D = C / B
予算額	2,061,727	2,066,350	△4,623	△0.2

【収入】



◆運営費交付金と学生納付金とで18億48百万円と全体の90%を占めています。  
 ◆受託・共同研究収入は、毎年、20%増の獲得を目指しています。(H22: 18百万円)

【支出】



◆人件費は14億47百万円であり、支出予算総額の70%を占めています。人件費のうち72%(10億46百万円)は、教員人件費です。  
 ◆事業費(教育研究に係る経費など)は、6億15百万円であり、前年度に比べ9%増加しています。

【主な取組】

教育研究

戦略的大学連携支援プログラム(文部科学省補助事業)

山口東京理科大学、山口芸芸大学と連携し、各校の強みを生かして教育研究や地域貢献活動の高度化に向けた取組を進めます。  
 ・高大接続教育プログラムの共同実施  
 ・語学、情報など各大学に共通する科目のモデル教材開発  
 ・臨地実習型授業の共同開講  
 ・テレビ会議システムによる公開授業の配信 等

「地域学」の開講

山口県の自然、政治経済、文化などをフィールドワークを交えて総合的に学び、地域づくりに取り組む能力を培う「地域学」を開講します。

食育プロジェクト

本学の特色を生かし、食育に関する学生の実践活動や食生活自立の支援と地産地消を組み合わせた取組(地産地消メニュー開発、食育体験野外活動など)を総合的に進めます。

国際共同研究

ラップランド大学(フィンランド)、青島大学(中国)との間で、本学の特色を生かした共同研究にそれぞれ取り組みます。

地域貢献

心と身体の相談室

健康と介護、女性と子ども、進路相談、家庭と職場に関する相談に、本学教員(医師や看護師、社会福祉士、管理栄養士等の有資格者)が応えます。

ボランティア窓口の設置運営

学生生活支援センターにおいて学生の自主的な活動と地域の要請をつなぐ情報窓口を運営しています。

オープンカレッジ

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、専門的な「やまぐち校の森カレッジ」や「サテライトカレッジ」、現職者のスキルアップのための「キャリアアップ研修」など、さまざまなオープンカレッジを開催しています。ご参加をお待ちしています。

学生支援

学業成績優秀者奨学金

学生の学習意欲を高めるため、成績上位者に対し奨学金を給付します。



就職活動支援

キャリアコーディネーター、専門分野別キャリアカウンセラーの配置や、学生自ら行う職業適性診断を活用した就職活動スキル向上ワークショップの開催など、就職活動支援体制の強化を図ります。

学生スタッフ制度

学生に大学の公的活動や地域活動に主体的に参画する機会を提供し、併せて奨励費を支給する取組を行っています。

国際交流

本学留学生地域交流

地域の小中学生等に異文化との出会いを提供するため、本学留学生とともに各地域を訪問し、交流を図ります。

新たな学術交流協定の締結

フィンランドのラップランド大学と学術交流協定を締結し、学生交流、教員交流、共同研究の展開を図ります。(締結校6校→7校)

## Topics

### ■看護栄養学部看護学科 眞竹昭宏(またけ・あきひろ)教授が、第1回山口県産業技術振興奨励賞(山口県知事特別賞)を受賞。

看護栄養学部看護学科の眞竹昭宏教授(博士(工学))が、県産業技術振興奨励賞を受賞しました。同賞は県から優れた技術を基にした事業活動により県内産業振興への貢献が認められる中小企業等に贈られます。



表彰状を手にする眞竹教授

眞竹教授は、受賞企業が手掛けた大型船舶等に設置される自由降下式救命艇の開発に産学公連携の一員として参加し、海面衝突時の乗員への衝撃緩和策について、人間工学・生体工学的観点から行った技術監修が特別賞として評価されました。

眞竹教授は、「これまでの研究成果や知見がスポーツや健康づくりだけではなく、世界中で働く乗組員の生命や安全を守るためにも活かされて大変嬉しく感じています。」と喜びを語りました。

## Campus Schedule

4  
APR

入学式、新入生オリエンテーション、前期授業開始

5  
MAY

開学記念日・開学記念行事

6  
JUN

水無月祭、グローバル学生交流

7  
JUL

オープンキャンパス

8  
AUG

前期末試験、夏季休業、AO入学試験、海外語学・文化研修(9月も)

9  
SEP

秋季卒業式、AO入学試験(二次選抜)、3年次編入学試験

## 編集後記

平成22年3月春分の日 木村 泰則(経営企画室長)

日に日に増していく陽気と歩調を合わせるように、キャンパス内は入学生を迎える準備等で活気とあわただしさが増えています。昨年10月に赴任した私にとっても、初めて迎える入学式であり、その点は新入生と変わりません。気持ちを新たに業務に取り組んでまいりたいと思います。

さて、本学では平成18年4月の公立大学法人化から4年を経過し、事務組織の見直しを行いました。多様化・高度化する高等教育へのニーズに対応する教育企画能力の向上や研究の活性化、また、学生の視点・立場に立ったサービスの提供・推進等を目的にしたものです。

大学は「教育研究」と「組織運営」の両輪がかみ合うことで、大きな力を発揮します。今回の組織再編を原動力に、学生が入学して良かったと思える大学づくりに一層努めてまいります。また、広報誌へのご感想・ご意見もお待ちしています。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号  
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251  
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>  
※Web動画配信も行っています。



交換留学生の送別パーティーを本学で開催しました。地域のホストファミリーや学生、教職員らが参加し、大学生活や山口での思い出話などで盛り上がりました。

表紙の題字は、江里理事長(学長)の直筆です。